

# 現代の生活様式に合わせた 屏風の提案

阿部研究室 制作 橋都咲良



## コンセプト

現代で重視される「おうち時間」  
自宅にて快適な睡眠を実現し、心と体に休息を与える目的とする。

## 01. 背景・目的

卒業研究のテーマを選択するにあたり、興味がある美術品や絵画に関係し日本の文化に触れられる様な題材であることを基準に考え、様々な美術館を改めて見て回った。そんな中出会ったのが屏風であった。教科書や美術館で目にする屏風だが、時代が進むに連れて実物を見かけることが減ってしまった。そこでその長い歴史を辿ると共に廃れてしまった理由を調査し、現代の生活様式に合った屏風を作ることが出来れば屏風が自分達にとってもっと身近なものになるのではないかと考えた。

本制作は「現代の生活様式に合った屏風を提案・制作し新たな屏風の可能性を見いだす」ことを目的とする。

## 02. 繁栄の歴史

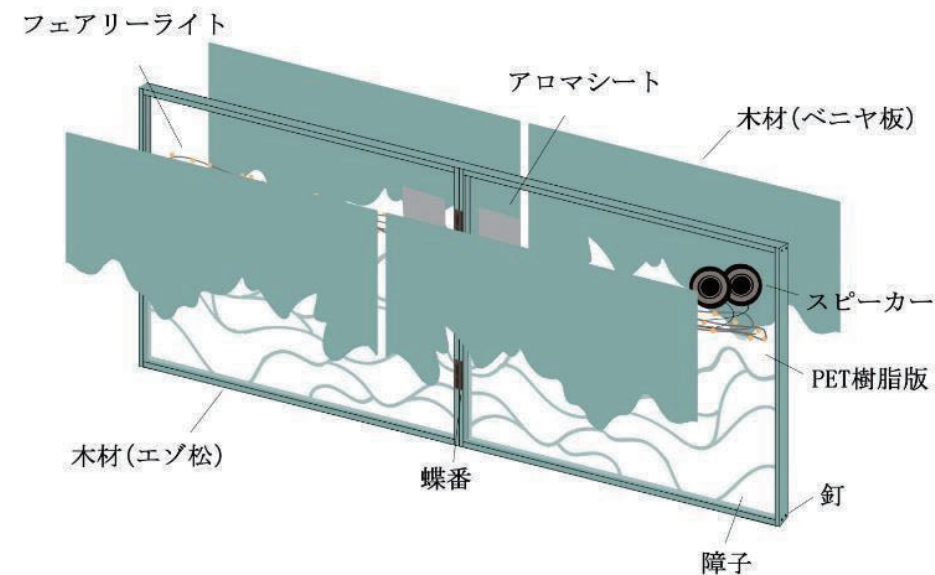
明治時代	江戸時代	室町時代	奈良時代	飛鳥時代
様々な種類の屏風が誕生 平民が部屋道具として使用	絵画発表の機会として使用 裕福な町人が装飾品として使用	芸術の流行と共に発展 貴族が装飾品として使用	日本最古の屏風が誕生 貴族が風よけや目隠しとして使用	中国から渡来 王族が調度品として使用

## 03. 衰退の理由

- ① 一般家庭の生活様式が和室から洋室へと変化したこと。  
明治期より、上流層の住宅にみられる洋館建設の動きとその影響を受けた中流層の住宅動向により一般住宅の洋風化が始まった。
- ② 家庭で寝具が布団からベッドに変化したこと。  
1926年に日本初の眠るため専用のベッドが生産され、1970年頃には一般家庭にも広まった。
- ③ 冷暖房の普及により室温調節が簡易化したこと。  
エアコンの普及率は1970年頃上昇し、1990年代には8割を超えた。

以上の3つは屏風衰退の仮説と根拠である。この様に日本の生活様式が大きく変わったことにより屏風はあまり見かけなくなりました。本研究では、これらを参考に屏風の新たな可能性を探り、現代の生活様式に合った屏風の制作に取り組むこととする。

## 06. 材料

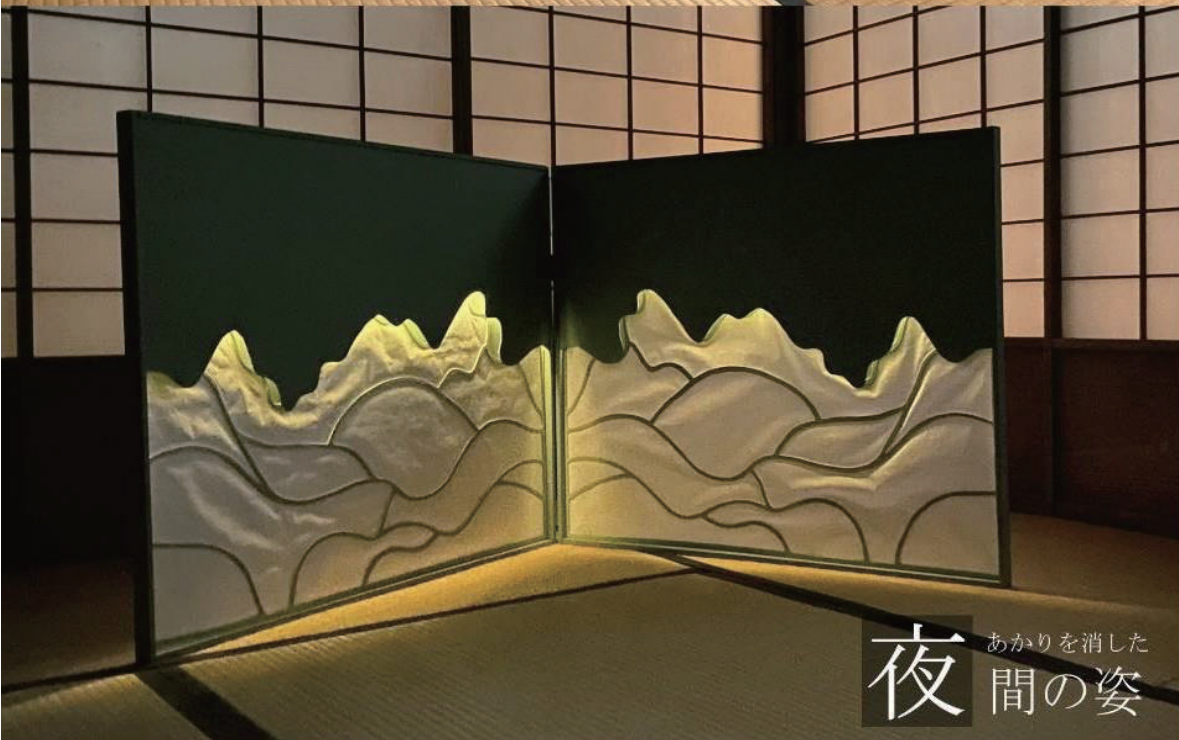
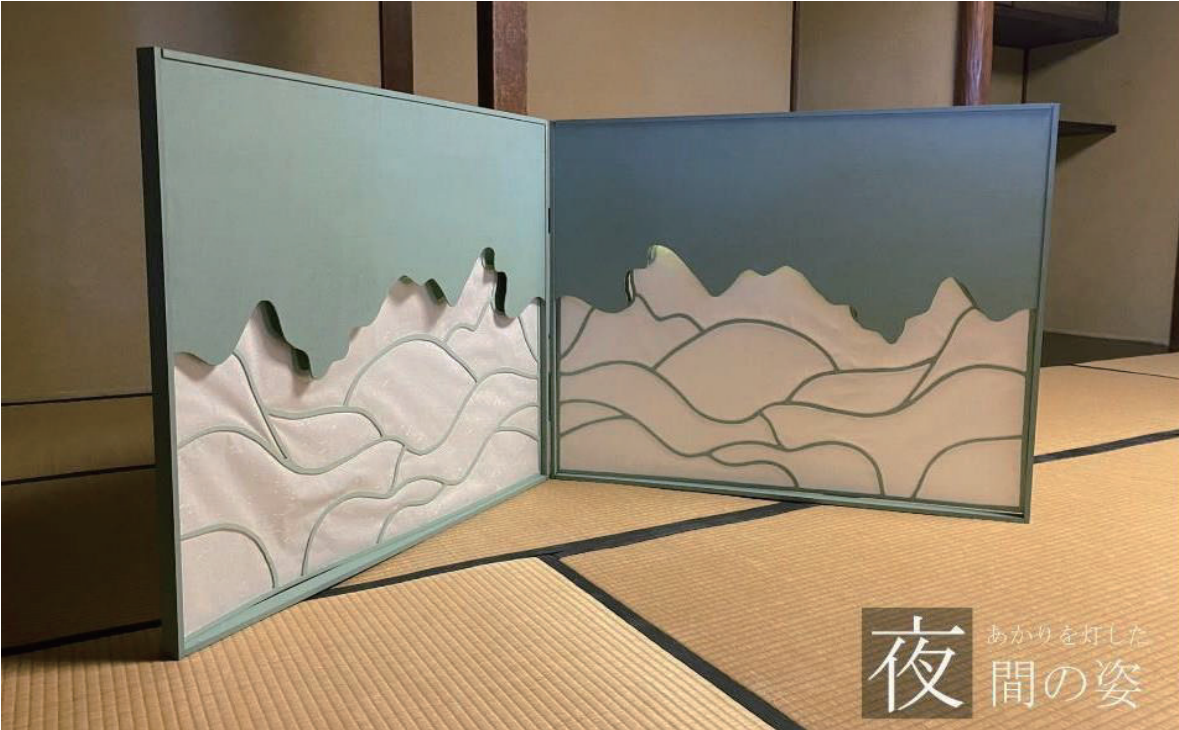


## 07. 制作過程

1. エゾ松を (9×30×750) ×4, 9×30×900 ×4, ベニヤ板を (2.3×907×750) ×4 を用意し、ジグソーを用いて図面通りの形に切り出す。エゾ松は表の板をはめるためにトリマーの3mm幅の芯で溝を掘りだす。
2. 1に鏝をかける。
3. 2をペイント剤(チーク)で塗装する。
4. PET樹脂版を(20×20×900)×2になるように切る。
5. 屏風の下縁部分と側縁部分の接着面にボンドを塗り釘で打ち固定する。
6. 5の側縁の溝に3で作ったベニヤ板をはめ込む。
7. 6に4で作ったPET樹脂版をグルーガンで接着する。
8. 7に3で作ったベニヤ板を溝に差し込み接着する。
9. 5~8の工程を繰り返し、もう一扇も組み立てる。
10. 屏風同士に蝶番をドライバーでつける。
11. ベニヤ板の間にフェアリーライト、スピーカー、アロマシートを仕込む。
12. 最後に上縁の溝に本体をはめ込む。開閉可能なため11で仕込んだ物は取り出すことが出来る。またスピーカーから音を出す際はスマートフォンなどを接続する。



【図2】制作風景



## 04. 提案



机の上を仕切る



眠りを良くする



見られたくないものを隠す



間接照明として利用する

前述の仮説をふまえて現代にあった屏風として以上の4つの機能を提案する。ここから、今注目されている「おうち時間」に、快適な眠りを届けることが出来る「眠りの質を良くする」という提案を採用した。以下は五感からアプローチし、快適な睡眠を促す3つの機能である。

### 嗅覚

アロマを中に仕込む

取替が容易で適度な香りが楽しめるアロマシートを採用した。

### 聴覚

水が流れる音を出す

揺らめいて見える光方で、電池式かつリモコンで操作できるという条件を満たしているフェアリーライトを採用した。

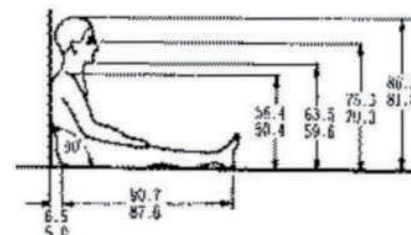
### 視覚

光の揺らぎを感じさせる

できるだけ薄く適度な音を流す、ヘッドホンに内蔵されるスピーカーを採用した。

## 05. サイズの選定

W900/D30/H750 に決定



【図1】長座体制時の人体寸法

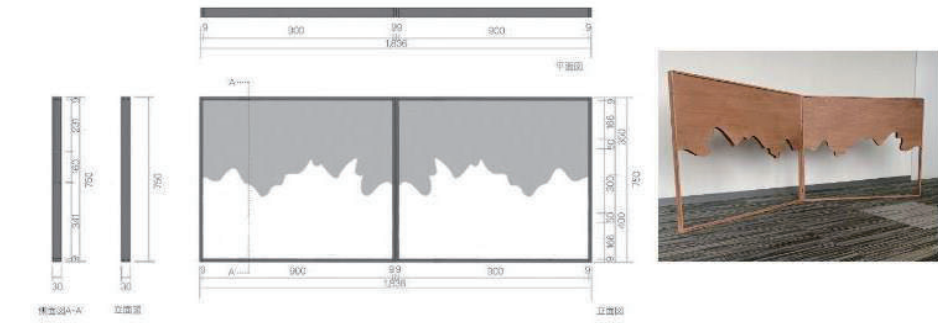
高さを布団から起き上がった時に目線が隠れるような高さである700から753mmの間で考えた。

幅はシングルサイズの布団と同じサイズの900mmで考え、それに伴い屏風の比率1対1.2を参考に高さは750に決定した。奥行は中に仕込むライトが入りできるだけシャープになるよう30mmとした。

機能的提案の実現及び設置方法は屏風の内部に仕込むこととし、上縁を外すと取り出すことが出来る様に設計した。

## 08. 試作

催眠導入のための3つの機能はベニヤ板の間に仕込み、開閉可能な上縁から取り出し可能となっている。木の温もりを感じられるオーク材を使用した。



【図3】試作図面



【図4】試作品

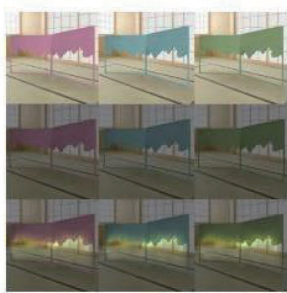
## 09. 修正点

- ・配色を再検討する。
- ・和紙を使用したデザインを考える。

## 10. 本制作

色の再検討について

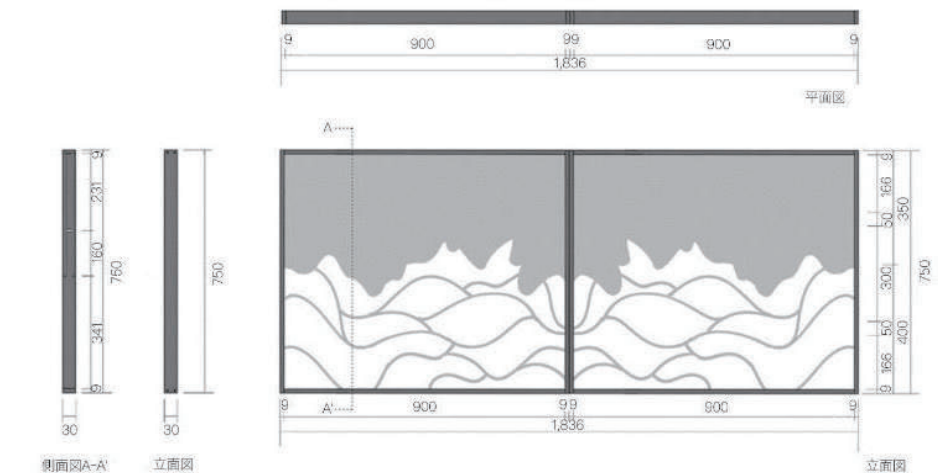
色が人に与える効果や特徴を調査し、眠りに関しプラスに働く色はピンクと緑と青であった。とある嗜好調査(渡辺安人/2005年/調査対象者:関西在住女性、平均年齢24~26歳、最大186人、最少52人、平均127人)により、人は青や白を好むということ、また水を連想させる色であったことから青を選んだ。昼夜の差を出すために明度は高く、穏やかな印象を与えるために彩度は低くした。



【図5】配色の比較

修正した図面について

表上部から下部に水が流れていることをイメージし、上部の仕切りだけではさみしさを感じたため、和紙を取り入れることで現代に合わせつつも屏風の良さを感じられるデザインにした。



【図6】本制作図面